

◇卒業証書授与式

3月7日に、卒業証書授与式を挙行了しました。各務原市副市長 田中登様、各務原市教育委員会教育総務課長 長縄睦様を始め、多くのご来賓の皆様にご臨席賜りました。また、田中様には、浅野市長様の祝辞を代読していただきました。





市長様からは、『皆さんはこれから、「自分で選び、自分で進む」世界へ踏み出していきます・・・。自分の納得できる道を、自分の足で歩いてください。その途中で、誰かを守れる人でいてください。その人は最後によいのです。卒業生の皆さんの前途に、幸多からんことを心より願っています。』というお言葉をいただきました。

「卒業生のことば」では、卒業生を代表して、東山彩花さんと伊藤蘭さんが話をしました。

二人の話は、川島中に入学した時を振り返るところから始まります・・・。

川島中の顔となった三年生。体育大会では、生徒会スローガン「共進」の下、私たちは団を引っ張る決意で臨みました。最高学年というプレッシャー、動いても働きかけても結果が伴わない辛い日々。それでも仲間と優勝を誓い合い、練習も日常も精一杯取り組み、励まし合い、乗り越えてきました。

そして迎えた本番。最後の選手リレーが終わったとき、小中グラウンドには、選手を温かく迎えるハイタッチの輪が広がっていました。全校生徒がつながる輪は、互いをリスペクトし、全力で挑んだからこそ生まれたものです。勝敗以上に、一人一人が日々の積み重ねを力に変え、全力を尽くした忘れられない大会になりました。

中学校生活最後の音楽祭、私たちは「言葉にすれば」というアカペラで始まる難しい曲を選びました。なかなか音程をつかめず、焦りを抱えながらも、毎日、パート練習を繰り返し、一步一步確実に音を重ねました。「最高の合唱にしたい」という強い思いに比例するように、日に日に変わる歌声。思いを真剣に受け止め、姿で、歌声で応えてくれる仲間の姿に、心が震えました。また、合唱の高まりと共に、日常生活の質も高まりました。これまで以上に、時間行動や清掃に力を入れ、最高学年として姿で示すことを意識しました。そんな仲間と同じ時間を過ごせたこと。同じ目標に向かって歩んだこと。一人一人の思いをぶつけた「言葉にすれば」。これら全てが、私たちの誇りです。

私たちはこの三年間、成長や成功の裏で多くの失敗を経験してきました。けれど、どの行事でも最後までやり抜くことができたのは日常を大切にしてきたからです。一年生のときから、床磨き、ロッカー整頓、時間行動など、あたり前のことを「仲間と共に」あたり前に、三年間ずっと継続してきました。この小さな積み重ねこそが、私たち一人ひとりの中に、崩れることのない強く大きな土台を築き上げてくれました。

私たちを導いてくださった先生方、本当にありがとうございました。

授業を工夫し、学びを深めてくださった先生。悩む生徒に寄り添い、同じ目線で一緒に考えてくださった先生。誰一人取り残すことなく真正面から向き合ってくださいました先生。私たちと肩を並べて円陣を組み、「大丈夫」「やろう」と声をかけ続けてくださった先生。お一人お一人からいただいた温かさや力があってからこそ、私たちは今、胸を張って未来へ進むことができます。

お父さん、お母さん。今年一年を振り返ると、私は不安や焦りから、心ない言葉をぶつけてしまうことがありました。それでも、ただ温かく見守り、そっと支えてくれました。お母さん、受験の日には、「行ってきます」と言う私を抱きしめ、「頑張っ



をかけてくれましたね。お弁当に添えられていたお母さんからの手紙を私は筆箱の中にそっとしまって、お守りみたいに毎日持ち歩いています。「ずっとがんばってきたから大丈夫!」という言葉や私を抱きしめてくれたぬくもりを思い出すたび、私は不安が和らぎ、前を向くことができます。普段は照れくさくて言えないけど、今まで育ててくれて本当にありがとう。これからも甘えてしまうけど、私はお父さんお母さんのもとに生まれて本当によかったと心から思います。

そして、仲間たち。笑い合い、何気なく過ぎた日々が、どれほど幸せだったか。雨の日も暑い日も並んで歩いた通学路。授業を受ける友達の真剣な横顔。床磨きのあとピカピカに輝く廊下。他愛もないことで笑い転げた昼休み。いつの間にか小さくなった制服――もう二度と戻らないかけがえのない日々の愛しさに、今になって気付きます。小学校から共に過ごし、支え合い、つながり合いながら成長してきた私たちです。今日の卒業は、嬉しさと同時に言葉にできない寂しさもあります。

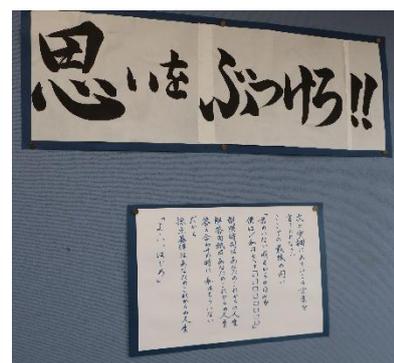
いよいよ旅立ちのときが来ました。仲間と共に積み重ねた日常という名の土台の上に、百二十八人がそれぞれの成長を積み上げ、私たちはいま未来への新たな扉を開きます。今後、様々な困難や迷いに出会うこともあるでしょう。けれど、仲間と積み重ねた日々が私たちを支え、前へ進む力を与えてくれます。

川島中で過ごした三年間を胸に、私たちはそれぞれの未来へ一歩を踏み出します。

卒業式の後には、『卒業記念活動』がありました。伊藤舞さん、赤堀さんの話の後、「信じる」「言葉にすれば」がありました。言葉にできないほど素晴らしいもの・・・とよく言われますが、まさにそのような合唱でした。迫力があり、強い思いのこもった素晴らしい合唱でした。



各教室で行われた学活では、9年間共に過ごした仲間との最後の時間を大切に過ごすことができました。





保護者の皆さんに感謝の言葉を伝える場面もありました。



川島中の仲間との「絆」を大切に、新しい世界へ胸を張って力強くすすんでいってください!!